

国際規格の農業が食の安全・安心を支える

【西坂農機株式会社】

農機需要の先行きを見据え
地元農業の活性化に自ら着手

ヤママーディーゼルの特約店として、農機・建機の取り扱いを主事業とし、高島市に本社を構える西坂農機株式会社。

農業を通じて地元への活力になりたいと、農機の販売にとどまらず、農作業の受託を始めた。2003年の小松ライスセンター開業を手始めに、06年に農業生産法人有限会社エコ農業シサカを設立、11年には米粉工場を稼働させるまでフィールドを広げている。「ウチは農機を売



るのが仕事だから、農家の人たちが田んぼを作らなくならぬのが一番困る。遠回りでも農業そのものを活性化するには必要がある。だから、自分たちも農業に取り組みようになつたと西坂良一社長。

それでも、取引先の農家をサポートしてきただけ、実際に作り手となつたことで問題解決に必要なものがよりクリアになつた。「農業というものは、国の制度に翻弄されやすい。生産者だけでは難しいので、関連する企業と連携するののも一つの解決策だと思う」

東京五輪を見据え

県内初のグローバルGAPを取得

2年前に大きな動きがあった。株式会社フアーム・アライアンス・マネジメンツのフランチャイズメンバーとして、R西日本、神明HDと連携し、国際認証規格グローバルGAPを取得した。県内では初の取得事業者となつた。きっかけは2020東京オリンピック・パラリンピック。「GAPの認証を受けるにはお金もかかるし、審査のハードルも高い。でもGAP認証がないと

オリンピック選手村などに食材の納入ができないわけだから、クリアせざるを得ない」。世界を相手に農業を続けるには、農産物の安全を確保するための農場管理手法GAPが必須であることを見越した判断だ。GAP取得の際、大きなアドバンテージとなつたのが、安曇川の伏流水をはじめとする地元高島市の自然環境・安全・安心な農作物のためには、水が一番大事なのです。びわ湖を守るため滋賀県の水質データは他県に比べて充実している。だから、厳しい認証規格にも関わらず、問題なくクリアしたので誇らしげに教えてくれた。



健康を支える「食」を実現 鍵は専門企業との連携

同社は11年に農林水産省から6次産業化事業者の認定を受け、日本酒や米

粉商品の開発・販売を手掛けている。こころでも鍵は専門企業や専門企業とのコラボレーション。主食としての米の消費が減少するなかで、県産米「夢みず」を使った乾麺や、地域の米と水で仕込む日本酒造りなど、地元への「食」に携わることの重要性を実感している。「消費者と接することのない農家は、成果物のフィールドバックを直接受ける機会が少ない。手間暇かけて作った自分の米が酒になる。これは農家のやりがいにもつながるはず」。今後、既成概念にとらわれず、さらなる農業の活性化に取り組み、いくと西坂社長は決意を語る。

DATA

西坂農機株式会社

1929年創業。ヤママーディーゼルの農機と建機の販売・レンタルを支柱とし、「お客様に選ばれる店作り」をモットーに、整備・メンテナンスも行う。2006年に有限会社エコ農業シサカを設立。農業を中心としたソリューションを展開している。

代表取締役社長 西坂 良一
高島市安曇川町西万木832-6
TEL 0740-32-0026
http://www.eco-nishisaka.com



Person

地域の健康を支える